

改善計画書

1. 目的

本計画書は、循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書の「1 目標達成状況」より、未達成となった項目について、その要因を分析するとともに、今後の目標達成に向けた方策等にかかる計画を定めるものである。

2. 非達成項目

目標を達成できていない指標は、以下に示す項目である。

- ・家庭系1人当たりの排出量、目標 232 kg/人に対し、実績 236 kg/人
- ・再生利用量(総資源化量)、目標 6,552 t (再生利用率 20.8%)に対し、5,468.4 t (19.2%)
- ・最終処分量、目標 3,642 t に対し、3,653 t

3. 目標が達成できなかった要因

・排出量

家庭系・事業系ともに総排出量は減量が進んでおり、目標を達成している。家庭系1人当たりの排出量においては、市民のごみ減量努力により、減少傾向を示しているものの、目標には及んでいない。人口、家庭系ごみ総排出量ともに目標より減少しているが、資源を除く家庭系1人当たりの排出量が平成17年度に比べると減少はしたが、目標に対して若干減少が小さくなっており、資源の減少量に対してごみの減少量が目標に対して進まなかった。資源を除く家庭系ごみの減少量が目標に比べ、少なかった要因として、不燃物は排出抑制が進み、減量しているのに対し、可燃物は減少率が小さく、ごみの分別化や排出抑制が進まなかったことが挙げられる。

・再生利用量(総資源化量)

知多市は、「知多市方式資源回収」として、市が回収・売却する地域回収と、住民団体が行う資源回収に対して奨励金により支援する集団回収の2方式を行っている。事業系についても、食品残渣等の堆肥化、剪定枝のチップ化等、積極的に行っている。

また、処理後に関しては、ごみ処理施設からの熱分解鉄・アルミの資源化や、粗大ごみ処理施設からの破碎前の鉄・その他金属の回収、破碎後の鉄・アルミの資源化にも取り組んでいる。達成できなかった要因として、ごみ総排出量の減少に伴い、資源ごみ自体も減少していること。資源化ルートとして、新聞店等の資源自主回収の推進や民間資源回収ステーションの設置などが増えてきており、市が量を把握できてないルートでの資源化が行われていることなどが挙げられる。

・最終処分量

ごみの減量に伴い最終処分量の減量も進んでいるものの、目標には及んでいない。

達成できなかった要因として、スラグの有効利用が不足していたことなどが挙げられる。

4. 目標の達成に向けた施策等

・排出抑制・再生利用

市の広報誌、ホームページ、チラシ等を通じた、ごみの減量化・資源化についての啓発活動や、リユース、リサイクルに関するイベントの開催により、啓発の充実を図り、資源回収率の向上に努める。特に可燃物については、ごみの分別の強化による排出抑制を進めていく。また、民間ルートでの資源化量など、市で把握出来ていない資源化量の実態把握に努め、適正な資源化を推進する。

・最終処分量

排出抑制、再生利用を推進し、ごみ減量により更なる最終処分量の減量に取り組む。